

# 永井先生からのメッセージ No.6

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2023年 1月 27日(金) 野毛山幼稚園

元小学校教諭 永井 裕

## 【親切とか思いやりとか ♪やさしさに包まれたなら♪】

東京ディズニーランドのあるレストラン。そこに、若い夫婦がやってきた。キャストは二人用の席に案内した。二人はそれぞれの食事以外にもう一品、料理を頼んだ。「お子さまランチをください。」キャストは困った。店のマニュアルでは、お子さまランチは、9歳未満の子ども以外には出せないことになっていた。そう言われた二人は、さびしげな顔で互いを見つめ合う。キャストは、お子さまランチをだれが食べるのかとたずねた。「今日は、去年亡くなった娘の誕生日なんです。体が弱く、最初の誕生日も迎えることができませんでした。おなかの中にいるときには、主人と二人で、いつか、このお店のお子さまランチを食べさせてあげようと約束していたのに、それも、果たせませんでした。それで今日は、娘にお子さまランチを頼んであげたくて参りました。」その言葉にキャストは声をつまらせた。そして、次の瞬間、二人を別の席へと案内した。家族三人がかけられるテーブルだ。さらには、子ども用の椅子も持ってきた。その後、テーブルには、お子さまランチが運ばれてきた。キャストは、「ご家族でごゆっくりお楽しみください。」そう言って、テーブルをあとにした。



- ▶ 幼稚園生活の中で、子どもたちは「親切にする・親切にされる」という体験を繰り返しながら、親切の心地よさを実感していることでしょう。そんな子どもたちに対して、さらに願うことは……例えば、困っている人を目にしたとき、思わず手を差し伸べたくなる、親切にせずにはいられなくなる、そんな「思いやりの心」をもったやさしい子に育ててほしい……ということだと思います。
- ▶ 「思いやり」というのは、相手の立場や気持ちを思いやる、「想像する」ということ。小学校生活は、その「想像力」をより豊かにしていく6年間、ということもできるかと思います。

・「もし自分が同じようになったら」どうだろう ・「もし自分の親しい人がこうになったら」どうだろう  
・「もしこのままにしておいたら」どうなるだろう ・「こんな時あの人なら」どうするだろう etc.

▶しかし、高学年の教室では、子どもたちのこんなつぶやきも耳にしてきました。  
「ねえ先生。学年が上がるにつれて、親切って、迷うことが多くなってくるよね。」  
では、なぜ迷うのか。様々な状況や理由について話し合ったこともありました。

- 恥ずかしい ● 仲良しじゃないからまあいいや ● ほかの人が助けるだろう ● 知らない人だし
- 自分には関係ない ● 人にばかり頼らないで ● あなたのせいでしょ ● おせっかいかも
- 逆に迷惑かもしれない ● 余計なことして損したくない ● いいことないならやめとこう etc.



▶ 激しい雨風の中を飛び続けるように、親切をつらぬくことはとても難しいことです。また、「親切にしてください」と無理強いをしてはいけない時や場合もあります。でも、そんな世の中だからこそ、やさしさに包まれた毎日を子どもたちにプレゼントしていくことが、よりいっそう大切になってくるのだと思います。

